

# 協創推進の取組み状況

(令和7年12月時点)

# 次第

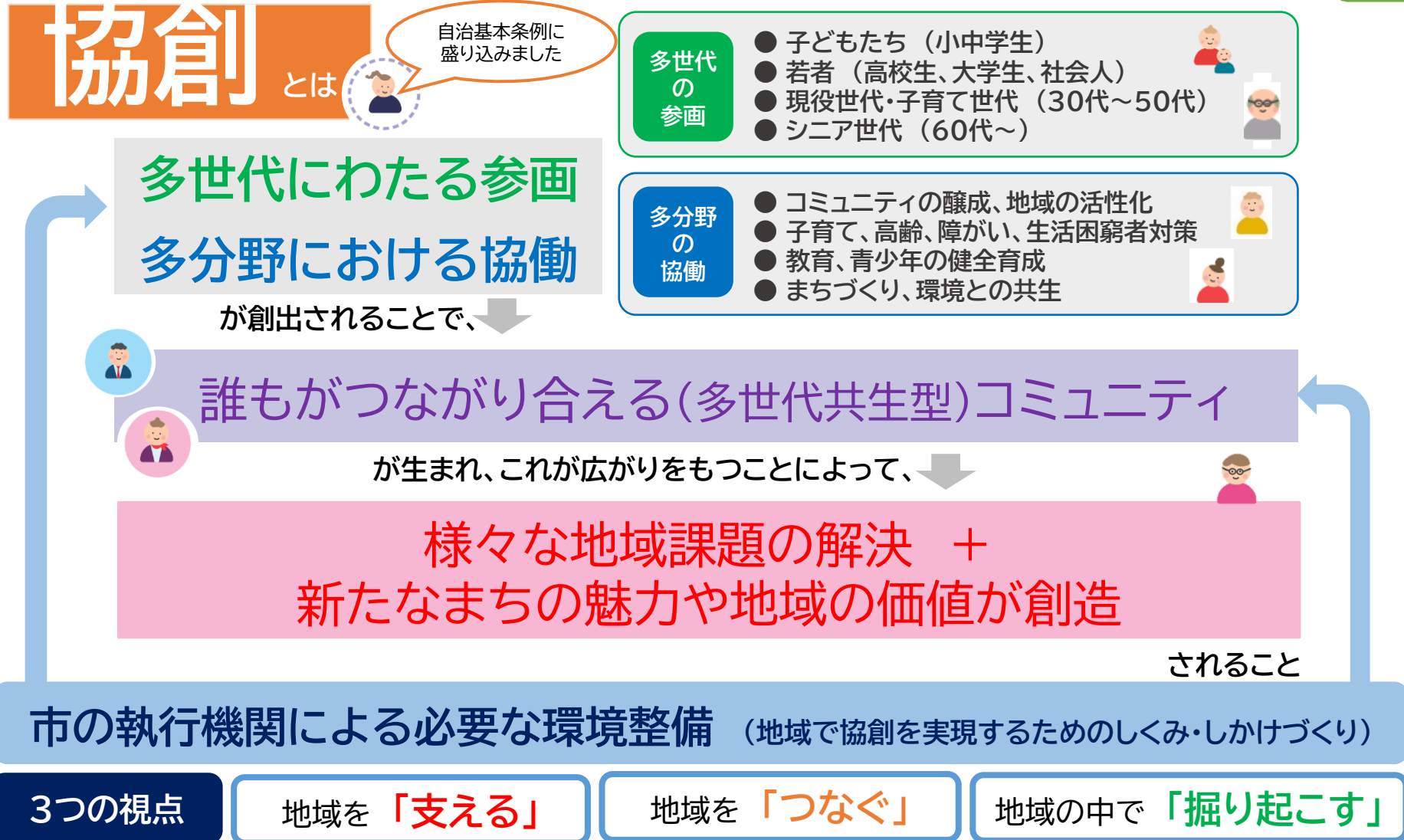
## 取組み状況の共有

地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくりについて

- ① 協創職員制度
- ② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)
- ③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援
- ④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム(次第3で議論)
- ⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備
- ⑥ 地域共助が可視化できるツール(②と関連)

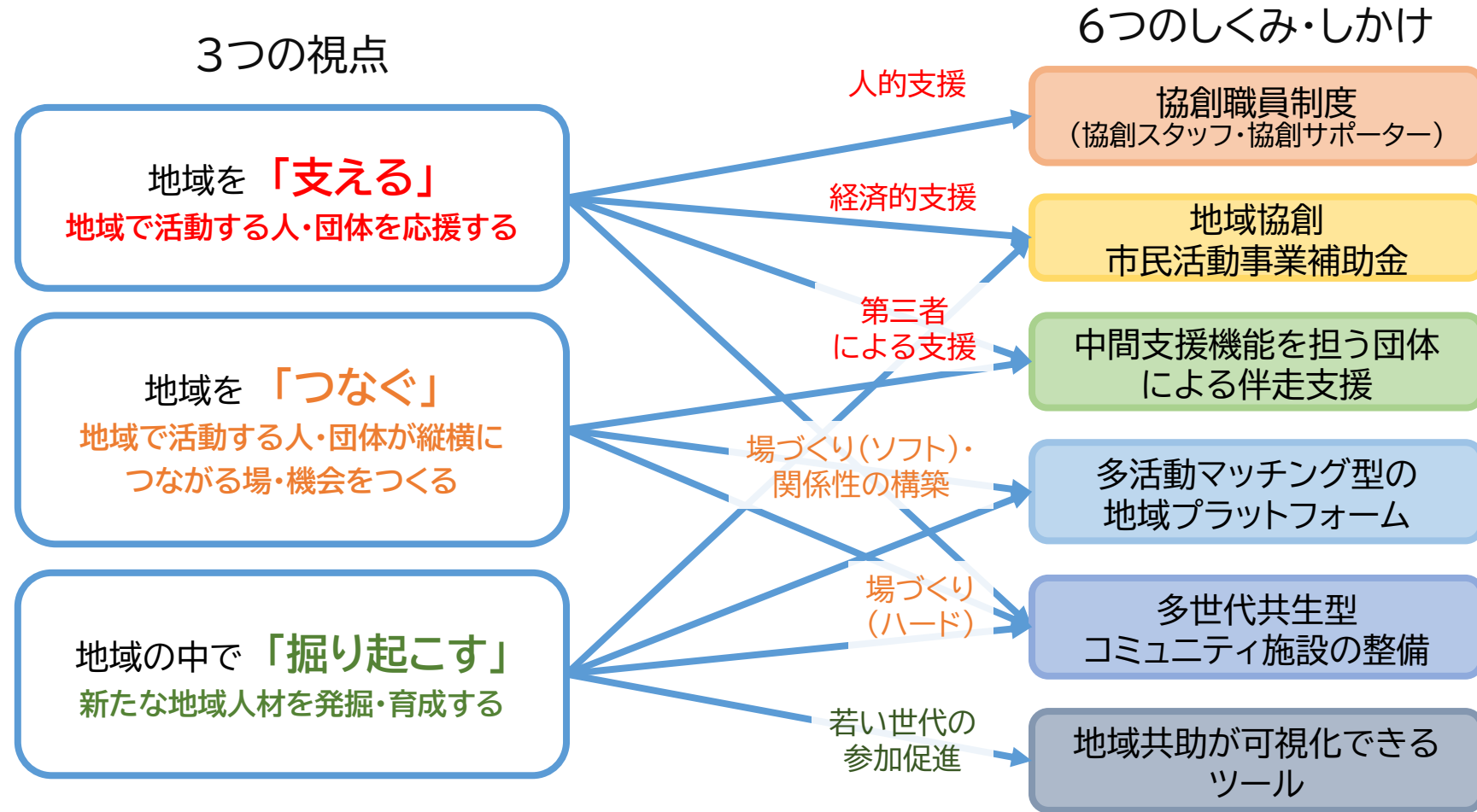
# 多摩市の「協創」の取組について

令和6年3月  
自治基本条例改正



# 「協創」の取組 - 市の進める環境整備（しくみ・しかけづくり）

## 地域で「協創」を実現するためのしくみ・しかけづくり（R7～）



# ① 協創職員制度

## ■協創職員制度

- 協創スタッフ（専任職員）
- 協創サポーター（若手職員の研修）
- 協創シニアサポーター（ベテラン職員の活用）



地域みなさんと一緒に活動して、今後活かせるスキルやネットワークを得る

## ●協創スタッフ（R6.4協創推進室設置）

### ■協創スタッフとしての職務内容

- 地域を**支える**（≡アドバイス）
  - 分野横断的な行政側の窓口、情報の収集・提供
  - 関係課と地域との橋渡し、庁内調整
- 地域を**つなぐ**（≡コーディネート）
  - 地域の会議に参加し、関係づくり
  - 団体間、人同士をつなぎ、ネットワーク形成
- 地域の中で**掘り起こす**（≡プロデュース）
  - エリアミーティングの開催等で新たな人材発掘
  - 地域カルテ、地域ビジョンの策定を通じた人づくり

## ●協創サポーター（R6.10～試行）

### ■協創サポーター研修制度（若手職員）

- 若手職員の研修として、地域のイベントや事業への参加、支援を通じて、市の職員としてのスキルアップ、能力育成を図る  
（コミュニケーション能力、ファシリテーション能力）  
⇒令和6年度は公募職員による試行（11課17名）  
⇒令和7年度は継続10名と2年目全職員（本年度2年目35名）

## ●協創シニアサポーター（構想中）

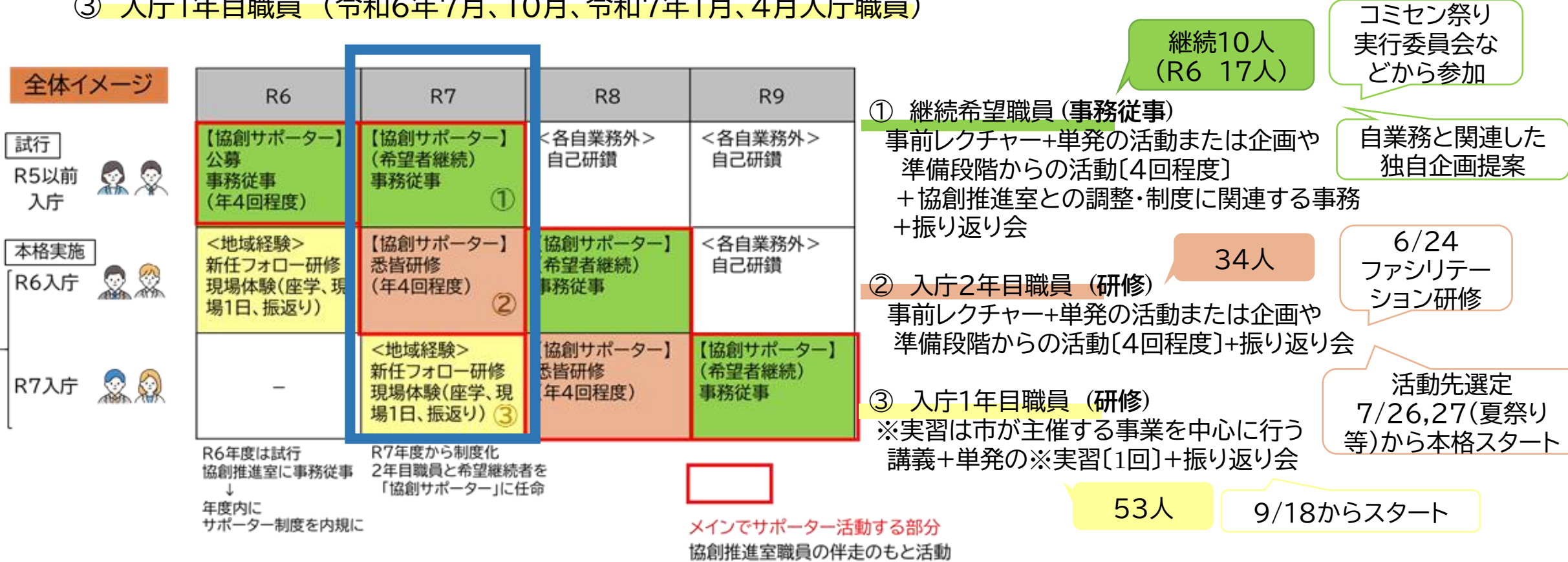


- 役職定年を迎えた管理職経験職員のキャリアを地域で活用検討

組織で得たスキルやネットワークを地域に活用して協創の実現に貢献

# ① 協創職員制度

- ① 継続希望職員（令和6年度に協創サポーターとして活動し、令和7年度も活動を希望する職員）
- ② 入庁2年目職員（令和5年10月、令和6年1月、4月入庁職員）
- ③ 入庁1年目職員（令和6年7月、10月、令和7年1月、4月入庁職員）



※いずれも、本来業務に影響のない範囲とし、勤務時間内での従事とする。  
(平日夜間の活動については、特例勤務などで通常の勤務時間をずらすことで対応する。週休日の活動となる場合は、振替休日を指定。  
振替は半日か一日単位でしか指定できないため、活動時間によってやむを得ず半端になった時間については、時間休を充てるか、  
受講報告書の作成や振り返り等、協創推進室が指定する活動や作業に充てることとする。)



# ① 協創職員制度

## □協創サポーター活動状況

継続してコミュニティセンター等の秋祭りやエリアミーティングへの参画など



地域の方達が好意的に接して下さり、地域や現場のことの理解が深まった

11/15トムハウスまつり



普段の担当業務では知りえない地域の活動や課題点に対し理解を深めることができる、有意義な体験

11/29東寺方小学区エリアミーティング

連続的に関わって地域の方と顔と名前が一致できると尚よかった

体力作業が多かった。人手が足りていないイベントに対し、必要以上に介入している面もあった

研修パッケージとして、参加する職員側や受け入れる地域側の理解や声掛けの工夫や改善を

## ② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)

### 【概要】

- 総合計画『**施策C-3 多世代共生型のコミュニティづくりの推進**』のため、【主な施策の方向性】の1つである、「**新たな地域人材を発掘・育成するしかけづくり**」に取り組み、【成果指標】として設定した「**様々な取組みによって、地域の中で新たな事業(プロジェクト)**」を生み出していく必要がある。
- これまでのエリアミーティングなど地域の取組みでは多種多様なアイデアが市民から出される一方で、実際に実現するための経済的支援がないことが課題となっていることから、**新規の取組みや新しい参画者を増やしていくためのしかけ**が求められている。
- これらのことから、本補助事業を立ち上げ、**既存の団体の活性化や新たな担い手の掘り起こし**を通し、市民主体の地域づくりを一層推進する。

地域共助が可視化できる  
ツール

### 【対象事業】

**【テーマ設定型】 分野横断的な地域共助の可視化につながる事業 (50万円×1件)**

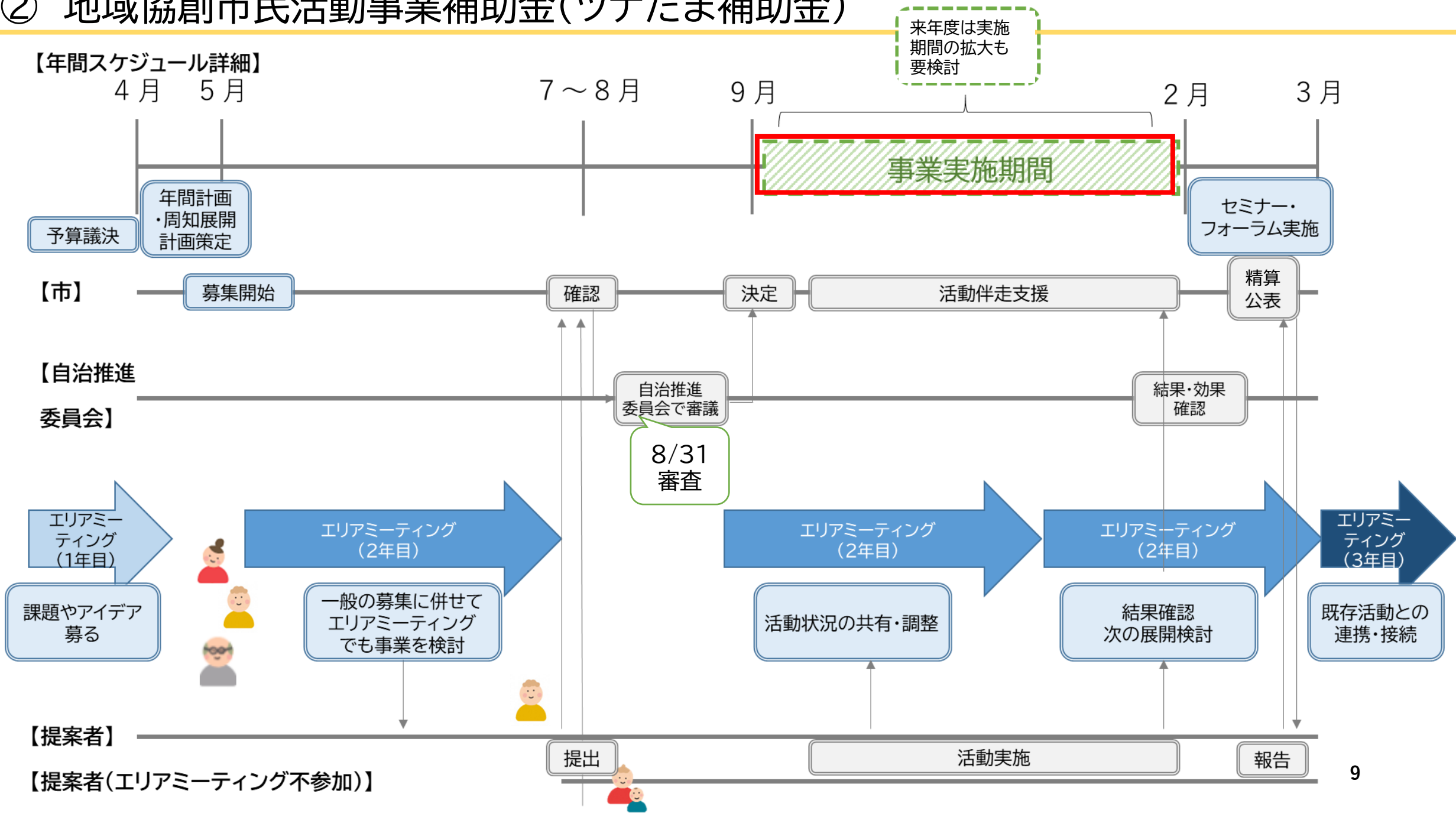
**【市民発意型】 多世代・多分野の地域コミュニティ形成につながる新規事業 (5万円×5件)**

協創職員制度  
(協創スタッフ・協創サポーター)

中間支援機能を担う団体  
による伴走支援



② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)



② 地域協創市民活動事業補助金(ツナたま補助金)

	令和7年度							
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
(つながる多摩)つなたま掲示板			掲示	掲示 11/10中間報告	掲示	掲示		
安心してきてね。多胎児、年子 予約休憩室			10/25(土)多摩 センターハロウィン(1日目)にて予 約休憩室					
地域のだれもが「やってみよ う！」ができる場所			10/4(土)星を 見る会		12/7(日)マル シェ交流イベント (子ども関連)			
地域の音楽愛好家を結ぶ、 オープンマイクイベント			10/26(日)オー プンマイクイベン ト					3/15(日)協創 フォーラムにて報 告
諏訪・永山れきし散歩				11/8(土) まちあるきイベン ト実施				
地域活動の必要性の理解を求 めて-自己変容と価値観共有-	9/28(日)映画 上映会	10/26(日)映画 上映会	・11/8(土)東寺 方秋まつり(0円 ショッピングイ ベント) ・11/30(日)勉 強会(トランジ ションタウン)	12/14(日)地域 通貨ワークショッ プ	ワークショッ プ			

中間報告  
○周知手法として効果を実感  
×広まり方が課題

訪れた方の感謝や子どもたちの笑顔が印象的で、スタッフと共に充実感を共有。ニーズや課題も見え、実施後には、取組みを効果的に続けられるよう、市の関係部署と課題感を共有し、有意義な情報交換ができた。

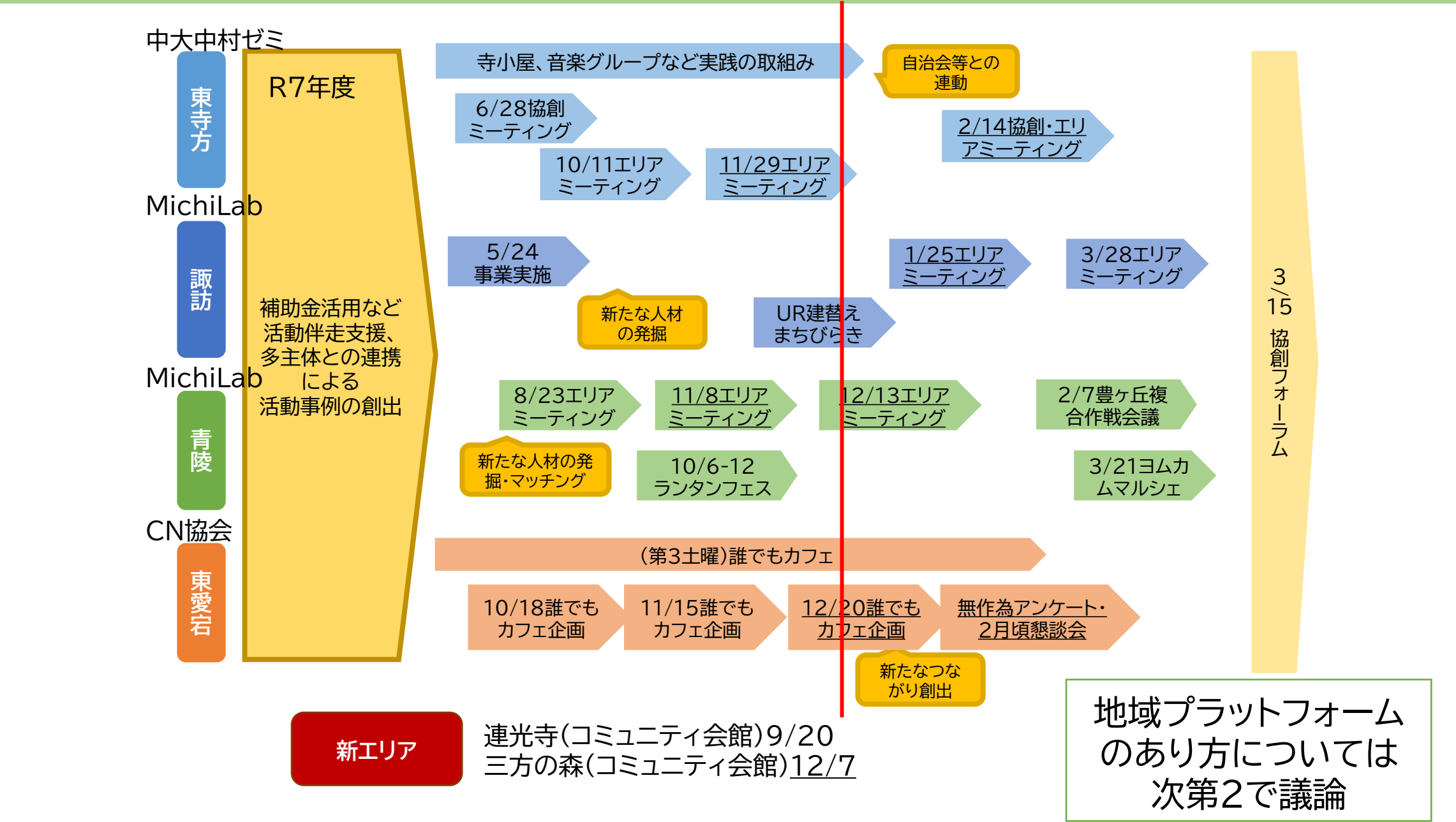


10/25ハロウィン 予約休憩室



11/8東寺方秋まつり

③ 中間支援機能を担う団体による伴走支援・ ④ 多活動マッチング型の地域プラットフォーム





11/29エリア  
ミーティング

普段は関わることの出来ない職業の方とお話が出来て、地域の活動に向けて力を合わせられることを発見出来て、有意義な時間だった。



実際にプロジェクトが動いていく様子を見守りたい、参画したい

11/8エリア  
ミーティング

未来のまちの姿を言語化することで、希望を持てたり、実現性があったりして、実行につながると感じた。

10/11.12  
ランタン社会実験12/7エリア  
ミーティング

地域のことを深く考える機会になり面白かった。エリアが楽しく暮らしてほしく、若い世代や住民の声をもっと聴いて活性化したい。

## ⑤ 多世代共生型コミュニティ施設の整備

現在の  
状況、整備  
に向けた  
考え方等

### 豊ヶ丘

整備方針策定(令和7年3月)  
建替え

⇒今後基本計画策定

指定地域共同活動団体の検討

○基本理念

「地域ニーズに柔軟に応え、多世代が集い、学び、つながる、豊ヶ丘の地域拠点」

### 諏訪

現在の施設は老朽化が著しく進行し、耐震基準を満たしていないことから、なるべく早期に、仮施設に移転したうえで、当面の間は、地区市民ホールとして運営。近隣の都営団地建替え、UR団地再生の状況を踏まえ、今後の施設像を要検討。

### 東寺方

再編後もコミュニティ施設として整備し、再編後は、既存のコミュニティセンターを補完するコミュニティ会館とする。

地域の人口構成、ニーズに柔軟に対応できるような運営形態の導入についても、地域の意向をふまえながら検討

R7年度  
実績・  
予定事項

住民対話を踏まえ検討

- ・施設コンセプト
- ・機能、サービス
- ・運営方法 など

①9/6(48名) ②2/7 ③6/6  
+10月ランタンフェスでの社会実験

東京都と、仮施設 移転先整理  
9/9,19住民説明会(計91名)

関係機関との将来施設の検討

令和7年度に、住民との対話にて  
「整備方針」を検討

10/18協議会  
11/29協議会  
1/17中間報告  
2/11協議会  
3/7協議会  
3/21協議会  
⇒最終報告



遊び場、滞留空間が効果を発揮。居場所や賑わい空間が欲しいとの声

予算化検討中



## ⑥ 地域共助が可視化できるツール

②と関連  
ツナたま補助金 「テーマ設定型」 の採択事業  
「つなたま掲示板」「東寺方寺小屋」等を通じて  
継続検討